

## 通貨流通高関連計数の季節調整値改定について

通貨流通高関連計数について、定例の季節調整替えを実施しましたので、お知らせします（定例の季節調整替えは、原則として、前年分の確報データが揃った時点で実施しています）。季節調整方法の概要は以下の通りです。

- 1) 米国センサス局法 X-12-ARIMA（バージョン 0.3）を使用。
- 2) 各系列とも乗法モデルを用い、対数変換を実施。事前調整における異常値と一時変化の検出・判定基準はプログラムのデフォルト設定による。季節調整に用いたデータは1960年1月から直近の12月までの56年間とし、その後は季節要素の予測値を用いて季節調整値を作成（1959年以前の季節調整値は不変）。

— 従来、データ系列の始期（1955年1月）から直近の12月までのデータを用いて季節調整値の改定を行っていたが、X-12-ARIMA で取り扱えるデータ数の制約<sup>(注1)</sup>から、2012年に実施した季節調整値改定より直近56年分のデータを用いる方法に変更。

（注1） X-12-ARIMA で季節調整を実施する際に使用できるデータ数の上限は、720個（月次計数の場合、60年分）。このうち、4年分は予測値の推計に使用。

- 3) 曜日調整はユーザ一定義変数を使用。

<季節調整を適用する際に用いたモデル>

| 指標名            | ARIMA モデル  | レベルシフト、ランプ <sup>o</sup>           | 曜日調整 | データ期間                |
|----------------|------------|-----------------------------------|------|----------------------|
| 銀行券発行高<br>平均残高 | (110)(011) | 1989年2月<br>2002年2～4月<br>2005年2～4月 | なし   | 1960年1月～<br>2015年12月 |
| 銀行券発行高<br>末残   | (212)(011) | 2002年3月<br>2005年3月                | あり   | 1960年1月～<br>2015年12月 |

照会先：発券局総務課事務運営支援グループ 03-3277-2665（内線 2455）